認定医ケースプレゼンテーション抄録

歯列矯正および歯冠長延長を併用した前歯部修復

村田 容子

A Case Report of Anterior Tooth Restoration in Combination with Minor Tooth Movement and Surgical Crown Lengthening

Murata Yoko

I. 症例の概要

上顎前歯部に対して、歯科矯正治療と歯冠長延長術を併用して審美的回復を図った症例である。

患者は初診時 30 歳女性、上顎前歯部の審美不良を主訴に平成 5 年 6 月 3 日来院した。

2|2 の舌側転位および 3|3 の低位と唇側転位があり、2| にレジンジャケットクラウン、1+3 に硬質レジン前装冠が装着されていた。いずれも約 10 年前に修復されたもので、マージン部の露出と前装部レジンの着色を認めた。5|5 が先天欠除していたが、臼歯部は Angle I 級の正常咬合であり、咬合に問題はなかった。X 線診査により、2|1|1|3 の不良根管充填および歯根膜腔の拡大を認めた。

II. 診断と治療方針

歯冠補綴のみでは不適切な抜歯を余儀なくされたり、不自然な形態の補綴物で修復することになり、審美不良の回復は困難と考え、歯科矯正治療の併用が適応と診断し、患者にその旨を説明、同意を得て、平成 5 年 8 月 20 日当病院矯正科へ対診した。その結果、矯正前措置として要感染根管治療歯の治療を行う、矯正治療終了後に歯冠補綴修復を行うという段階をおった治療方針を立てた^{1,2)}。

III. 治療内容

平成 5 年 8 月 20 日矯正科へ対診、セットアップ模型を作製し、動的治療終了後の咬合状態を予測した。矯正治療の前処置として 2|1|1|3 の補綴物を除去、同部の感染根管治療を行い、平成 6 年 6 月 10 日、矯正治療後の歯軸を想定してキャストコアを装着し、根管治療の必要なかった 2| とともにテンポラリークラウンを装着、矯正科へ依頼した。下顎にも叢生がみられたが咬合平面の異常はなく、患者の希望もなかったため、上顎のみ歯列矯正することとした。

平成 6 年 8 月 9 日に 4| を、同 8 月 17 日に 4| を必要抜歯。同 8 月 31 日より 6+6 のダイレクトボンディングシステムによる矯正治療を開始した (図 1)。その後 2+3 はあらかじめブラケットを鑲着した硬質レジン前装冠を装着した。およそ 1 年 6 カ月後 (図 2)、平成 8 年 1 月 9 日に 2+3 の硬質レジン前装冠を除去、前歯部歯頸線の修正を目的として、平成 8 年 2 月 16 日に 3+3 部に歯冠長延長術を行い³⁾、テンポラリークラウンを装着した (図 3)。歯肉の安定と動的矯正治療後の保定に十分な期間をとり、この間を利用して臼歯部の不適合補綴物および二次カリエスの治療を行った。保定期間終了後の平成 8 年 9 月 18 日、2+3 にポーセレンジャケットクラウン (サンライズクラウン®) を装着した (図 4)。

図 1 Intraoral views at the placement of orthodontic appliance
矯正装置の装着

図 2 Intraoral view after orthodontic treatment
矯正治療終了

図 3 After treatment of surgical crown lengthening with temporary crown
歯冠長延長術後

図 4 Intraoral views after treatment
補綴物装着時

IV. 経過観察と考察

矯正科と併せて 1, 3 カ月後, 1, 2 年後 (図 5) と経過観察を行い, 歯肉の状態も安定しており, 矯正後の後戻りも起こっていないことを確認した。

補綴前処置として矯正治療を行うことは, 期間, 費用などの面から患者側が抵抗を示すことが少なくないが, 補綴処置のみで今回の症例を行うには, 2|2 を抜歯, ③2①|①2③ という設計にいたった可能性があり, 歯冠幅径が不均等なうえ, 3|の歯冠長の長い, 清掃性の悪い補綴物を装着することとなり, 適正な審美的歯冠・歯肉移行部の形態が得られないと診断した。また, 矯正治療終了時の目標は, 補綴物により修復するという前提のもとにセットアップ模型を参考にして, 矯正科医との連携により決定したものである。歯冠長延長術を行うにあたっては, X線診査により歯冠歯根長比を計測し, 審美的な歯頸線を形成できるように位置を決定した。

矯正治療により期間はかかったものの, 患者の満足

図 5 Post-operative intraoral view
after 2 years
補綴物装着後 2 年

が得られた。また, 歯冠長延長を行ったことで, より審美性と歯周環境が向上し, 良好な経過を保つことができたと考える。

文 献

- 1) 亀田 晃. M.T.M その術式と症例 22-28, 東京:クインテッセンス出版, 1992.
- 2) Gerd Mayerhöfer. 臨床歯科医師のための補綴前矯正治療の実例 249-289, 東京:クインテッセンス出版, 1994.
- 3) 長谷川 明. 新編 臨床歯周外科学 173-176, 東京:クインテッセンス出版, 2001.